

ちば里山新聞

(第63号)
 編集発行 NPO 法人ちば里山センター
 袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148
 ☎ 0438-62-8895
 題 字 倉島 貴浩
 (ワークホーム里山の仲間たち)

第10回「オープンフォレスト in 松戸」が開催!

5月15日(日) 新京成線常盤平駅に降り立ち、今年で10回目を迎える「オープンフォレスト in 松戸」一つの会場「囲いやまの森」に向かいました。みんなにもっと森のことを知ってもらいたくて2012年から始まったイベントで、



遊具スラックラインで遊ぶ
手前はハンモック

普段は入れない森に誰でも入って楽しんでもらいたいとの思いから毎年開催されてきました。駅から徒歩8分程で到着、受付で募金をして寄木細工をもらい林内に入りました。この森で活動する「囲いやまの森の会」は、野鳥など多くの生き物の生活の場となっているので、人の活用地域は半分以下にとどめ、その他はあまり手を入れない方針のため、思いのほか暗い森でした。この会は松戸市で2003年から開講されている「里やまボランティア入門講座」の2期生を中心として結成され、2005年春から活動を始めました。また、この講習会を縁に、毎年修了生を中心に新しい

里やま活動団体が生まれています。これまでに14団体が生まれそれらにより「松戸里やま応援団」が結成されています。松戸里やま応援団は各団体の連携や情報共有のほか里やま団体の立ち上げ等の支援を行っており、これらの活動が評価され2021年1月ちば里山アワードにて、「ちば里山大賞(知事賞)」を受賞しました。



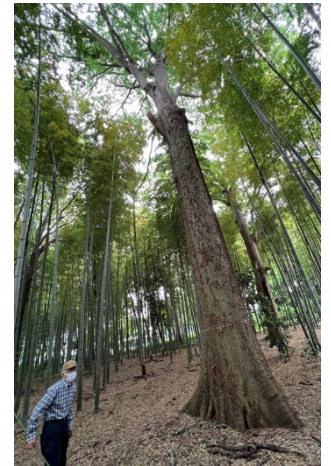
ケヤキの木肌に魅かれ

次に向かったのは里やまボランティア入門講座2005年の修了生11名が設立した「三樹の会」が活動している「三吉の森」です。三吉の森は昔、川越藩の人が移り住んだというケヤキとシラカシの巨木が茂る屋敷林で、中には竹林も広がり、イヌシデ、ムクノキ、モミヤツガなどの大木もあります。下層植生はヒトリシズカ、サイハイラン、エビネ、ヤマユリ等の花も咲いていました。その次に「一起の会」が管理する「ハヶ崎の森」に

向かいました。この会は名前のとおり松戸里やま応援団で最初に設立された団体であります。2004年の活動開始以来、樹木の伐採や土地の譲渡などにより、当初より狭い森になってきましたが、より多くの地域の子供たちと共に植樹をした樹々が春には花を咲かせ、秋には色とりどりの実をつけて楽しめるようになってきました。右の写真はすぐそばの住宅より落ち葉のクレームが入ったので地主が予定以上の伐採をしたため、土砂が住宅地側に流れ込み、対策としてあまり大きくならない樹木を植えているところだそうです。住宅の近くの樹木が大きく成長してしまい、住民とのトラブルに対応しながらも市民に憩いの場、子供達に遊び場として守っていく松戸の森のむつかしさをあらためて感じました。



子供たちに遊具を作成



竹林のケヤキの下で
案内の藤井会員



すぐそばに住宅地

ちば里山カレッジの第 1 回が八千代市にて開校する！

6 月 25 日 (土) やちよ農業交流センターにて 3 県 13 市にわたって 18 名が参加しました。最初に、ちば里山センター佐藤孝之理事長による「里山ボランティアのあり方」の講義のあと活発な質疑応答がありました。次にヤマトミクリの里づくり協議会の桑波田和子講師により今回の目玉として「ヤマトミクリの保全」についての活動報告がありました。最後に八千代オイコスの方より「耕作放棄地の利用について」の活動報告がありました。



最初より活発な質疑応答が



ヤマトミクリ (ガマ科)

座学を終え、農業交流センターより島田谷津を通過してむつみの森までの散策です。この谷津は八千代市内で唯一原型を残した谷津であり、多くの生き物と多様な植物が生育しています。特に「ヤマトミクリ」は絶滅の恐れがある千葉県レッドデータブックで最重要保護種 (A) にランクされ、千葉県内ではここ島田谷津でのみ観察することが出来ます。谷津にはいると、のどかな農村風景でダイサギがたわむれ、清流が流れる水路にヤマトミクリが確かに 30m ほどにわたって毬栗状の雌花と、その上にぼんぼり風の雄花がそろって咲いていました。千葉県でもここにしか無いという希少植物に感動し、これを守っているヤマトミクリの里づくり協議会の皆様の努力に感謝します。

島田谷津では八千代オイコスによって米作りがされています。金室代表の話によれば、かつて田畑の日影になる森の木々を、森の持ち主が田畑の持ち主のために伐採するしきたりがあったようです。田畑の持ち主はどこかほかにも他人の田畑のそばに森林を所有していることが往々にしてあり、逆にそこでは他の人の田畑の日陰になる木を切るという習わしです。かつての昔の村人たちの他人を思いやるやさしい心を感じることができました、今は少なくなったやさしさへの粋な計らいを感じました。



耕作地には森の木々が

そんな島田谷津を過ぎて荒れた藪の急斜面をしばらく登ると急に整備された森にた



むつみの森丸太小屋と看板の前で集合写真

どり着きます。何という演出か！・・・そこが「むつみの森」とは憎い配慮です。むつみの森に到着すると立派な木造りの小屋があり、上総掘りによる井戸水で手を洗い、会員の皆様による美味しい汁物を頂き昼食を済ませました。午後、むつみ隊山崎事務局長よりむつみの森の説明がありました。むつみの森では市民の自然観察会、子供たちに教育・学習の場として提供し、枯れ

枝、落ち葉を集めバイオネットを作成してカブトムシの養生をおこなっています。むつみの森を後に農業交流センターに戻る途中、むつみ隊が整備する竹林を抜けて行くと農業交流センターと八千代道の駅が見渡せる丘の上に出る配慮、これもにくい演出でした。農業交流センターに戻り、今後の里山活動で何が出来るか、熱い討論が時間を忘れたかのように続きました。



交流センターに戻っても暑い討論が

＜会員さまは以下のものを借ることが出来ます＞ 連絡先：ちば里山センター0438-62-8895
 研修用ヘルメット (30)、軽作業帽 (45)、竹挽鋸 (30)、手鋸 (30)、チャップス (10)、
 チェーンソーヘルメット (10)、屋外用ハンズフリーマイク (1)

里山じまん ⑨

わんぱくの森の会

東葛飾地区にある「わんぱくの森」より話のネタに・・・。

梨の地域ブランド「いちかわ」の北部、松戸市との境にある「紙敷川」に沿った1.5ha程の小さな森です。先代が森の一部を「大町小学校」の創設のために提供して、

残りを学校林として「わんぱくの森」が出来ました。

森の中は、谷あり(わんぱく谷)、山あり(向ヶ丘)の起伏に富んだ森で・・・房総の森に比べれば森とはいえませんが・・・、スギ非赤枯病溝腐れ病に罹病したスギはすべてボランティアが伐採し、落葉広葉樹と常緑樹をメインに、わんぱく谷の法面にはヒノキがそびえる景観(自画自賛!!)を作り上げました。

そこで森の自慢を二つ程・・・一つ目は、紙敷川を見下ろす法面



毎年12月に開かれる「森の焚火ゼミ」

上に何と!「わんぱく古道」が!・・・「熊野古道」に匹敵・・・は言

い過ぎですが、訪れた人はほぼ全員が「お〜〜〜」と、感嘆します。道の両側にはヒノキの古木(?)が並び、はるか上より通る人を見下ろしています(良い写真が見つかりませんでした・・・)。

二つ目は、毎年12月に「わんぱくの森の会」が、「濱野周泰・東京農業大学客員教授」を迎えて開く「森のたき火ゼミ」。唯一市川の森で焚火をするイベントです。ゼミの後は皆で「カンパ〜〜イ!」。

わんぱくの森の会 大峽章禧男代表



自慢のヒノキ並木

森林・山村多面的機能発揮対策アドバイザー制度を活用し、樹木診断を

6年程前に木更津市矢那の鎌足桜保存会より譲り受けた10本ほどの鎌足桜の苗を袖ヶ浦市椎の森に植えました。花も咲き順調に育っていると思っていたら、最近になって幹の樹皮が剥がれているのを発見し、他にも樹皮剥がれ1本、樹皮が窪んでいるのが1本見つかりました。スミパイン剤で消毒も試みましたが一向に改善が見られず悩んでいましたが、森林・山村多面的機能発揮対策事業のアドバイザー制度を活用し、アドバイザー石谷栄次樹木医に診断してもらうことができました。診断によると木材腐朽菌による溝腐れ症状と判定されました。今後も石谷樹木医に観察して頂けるとのことですが今のところこのまま見守るしかないそうです。

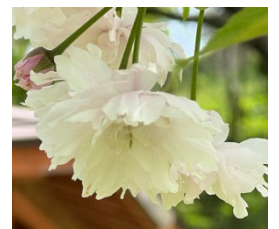


幹肌部分が剥がれた鎌足桜



診断をする石谷樹木医

「鎌足桜」は、遅咲きの八重桜で4月中旬から下旬にかけて咲きます。開花後、八分咲きほどになると、雌しべが中花に変化し二段咲きとなり、元花と中花とが一体となって、より一層優雅な花弁となりますので、開花期間を長く楽しむことができます。また、雌しべの先端が、鎌状に曲がっていることから、中臣鎌于(藤原鎌足公)誕生伝説の由縁ともなっています。



木更津で伝統工芸「房州うちわ」をつくる竹工房・竹星の石川好美さんをたずねました



一本の女竹より裂かれた骨の模様が何とも美しい

石川好美さんは高校卒業後、京都伝統工芸専門学校で竹工芸を学び、卒業後は腕を磨くため、京都の竹屋長岡銘竹に7年勤務し竹工芸技能士を取得、竹垣を中心に竹の加工技術、京都の雅な美意識を肌で感じ、習得され、地元千葉へ戻りました。そこで、京都の「京うちわ」、香川の「丸亀うちわ」とともに日本三大うちわに数えられている「房州うちわ」が国指定伝統的工芸品でもあるのですが、これが今は深刻な後継者不足に陥った状態であることを知ったそうです。「千葉の伝統を絶やしてはいけない」と石川さんは伝統工芸士の故・宇山正男氏へ師事、うやま工房で5年間修行にて房総うちわ製作の技能を習得し、現在、木更津で「竹工房・竹星」として活動してさ



1本ずつ糸で編んでいく

れています。「丸亀うちわ」が真竹を平たく切り出し、それを裂いて作るので8工程ぐらいしかありませんが、「房州うちわ」は竹の切り出しから皮むき、洗い、割りと21以上の工程があり、石川さんはすべて自分で行うそうです。特徴としては1本の女竹を2

→4→8→16→32→64 分割と均等に裂くのが至難の技です。竹の丸みをそのまま活かした丸柄を持ち扇ぐのでよくしなり、優しい風になるといわれています。また骨を糸で編んで作られる半円の窓の精緻な美しさは職人技そのものです。一本の竹から作られていることは竹の丸みをそのまま活かすことができ、握ったときにやさしく手になじみます。竹の魅力が伝わるものづくりを常に目指し、竹の特徴を最大限に生かしていきたいと石川さんは熱く語ってくれました。

石川さんは房州うちわだけじゃなく、細やかなインテリア雑貨や、個性的な竹灯籠、竹箆、竹製の指輪、ネックレスなど伝統の枠にとらわれない竹細工も製作しています。



里山の風にゆられて ⑱



ネムノキく合歡の木>マメ科ネムノキ亜科

ネムノキは名前のごとく夜になると小葉が閉じて垂れ下がる就眠運動を行うことで知られている。ネムノキは水辺をこのみ、河岸に咲く姿は優美で何とも言えない高貴さで、雄しべの花糸は淡赤色で長く伸びて、香りは桃のように甘く付近に漂う。

写真・文 赤松義雄 R4.6.29 袖ヶ浦市しいのもり



※※※※※ 編集後記 ※※※※※

今年度最初の号となり、松戸で開かれた「オープンフォレストin松戸」八千代で始まった「ちば里山カレッジ」の開校へとそれぞれ多くの参加者により盛り上がりました◆特集として木更津で伝統工芸品「房州うちわ」を作り続ける石川好美さんを取り上げました◆秋にはチェーンソー安全講習と岡部塾があります。(Y.A)

入会申し込み・問い合わせ先

特定非営利活動法人 ちば里山センター

〒299-0265 千葉県袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148 ☎0438-62-8895 FAX0438-62-8896 (平日9:00~17:00)

E-mail info@chiba-satoyama.net ホームページ <http://chiba-satoyama.net/>